

（初級編）初めて本格的な論文を書く人もいるでしょうから、論文を書くときの心構えなど、基本的なことをお話しします。

## 1. 論文は一種のプレゼンテーション（社会人として不可欠な能力を磨く訓練）

・論文とは、自分の頭で考えたことを、説得的に他人に説明するための文章です。他人を説得するためにはプレゼンテーション能力が必要であるほか、論理的に矛盾していないこと、データや先行研究を踏まえた議論であること、などが求められます。他人の意見の無批判な受け売りや、種本の丸写し、制度の紹介では、論文とは言えません。報告書やルポルタージュではないので、自分の意見がないと話になりません。

従って、他人の著書や、インターネットの記事などを引っ張ってきただけでは、とても論文とは言えません。

・社会人になっても会社で報告書などを書くことが多いでしょう。そのときに、卒業論文を書いて鍛えた能力が大いに役立ちます。相手を説得するためには、自分の論文のテーマがなぜ大切なのか、読み手を説得する必要があります。あまりテーマが大きすぎると、その説得だけでも沢山の頁を費やしますので、テーマを絞り込むことが大切です。

何百ページもの本を書くのであれば、色々なテーマを盛り込んでも良いのですが、修士論文に幾つものテーマを盛り込むのは無理です。

論文を書いているうちに、自分の書きたいテーマが変わっていくかも知れません。その問題に対する理解が深まったのだとも言えます。それでも構いませんので、まず書き出すことが大切です。出来るだけ早くテーマを決めて、資料を集めましょう。

・相手を説得するには、「自分が思うこと」を押し通すだけではいけません。相手が納得できるよう、客観的なデータや先行事例などを集めておくことが大切です。また、似たようなことは、たいてい誰かがすでに考えていますので、先人の知恵について研究することも忘れてはいけません。論文では「**先行研究**」と呼ばれる部分です。ここでは、先行研究を紹介するだけでは駄目で、先行研究を批判的に検討したうえで、自分の見解をつけ加えなければなりません。

他人の論説を丸写しすることは、<sup>ひょうせつ</sup>剽窃と呼ばれ、学問の世界では犯罪行為です。

・経済学の論文では、自分の議論を補強するために、**データ**（できれば統計的 or 計量経済学的なデータ処理が望まれます）、**資料**（とくに人が知らない一次資料が喜ばれます）、**経済理論モデル**などを使います。これは、一種の「お作法」のようなものです。

統計を勉強するには、統計ソフトを使いながら要点を覚えていくと効率的です。例えば、「JMP活用 統計学とっておき勉強法 革新的統計ソフトと手計算で学ぶ統計入門」新村秀一、BLUE BACKS（講談社）、2004年 1900円＋税

## 2. 初心者向けの卒論術テキスト

「**大学生のためのレポート・論文術**」小笠原喜康、講談社現代新書、2002年 680円＋税

「インターネット完全活用編 大学生のためのレポート・論文術」同上、2003年 720円＋税

「入門・論文の書き方」鷲田小彌太、PHP新書、1999年 660円＋税

## 1. 参考文献

- 「『超』文章法 伝えたいことをどう書くか」野口悠紀雄、中公新書、2002年
- 「勝つための論文の書き方」鹿島茂、文春新書、2003年
- 「論文・レポートのまとめ方」古郡廷治、ちくま新書、1997年
- 「『社会調査』のウソ リサーチ・リテラシーのすすめ」谷岡一郎、文春新書、2000年

## 2. 論文のテーマの選び方

- ・何を議論したいのか、事前に**頭を整理する**必要がある。米国では**narrow down**を推奨。
- ・確たるデータを取れないテーマを選べば、論説の正しさを立証するのが難しい。  
激情で突っ走っても、一般読者を納得させることはできない。**信頼性の高いデータを冷静に提示し、論理的に議論を進める必要がある**(さもないと説得されない)。  
この過程で、データの解釈に無理があってはいけない 谷岡先生の本を参照
- ・あまりに独創的過ぎて、なかなか理解されない **先行研究**を調べておく。  
学問の世界でも、新理論の提示はなかなか受け入れられなかった歴史がある。
- ・だからと言って、人の受け売りばかりでは**剽窃**に **書き手のオリジナリティ**も必要。  
議論され尽くしたテーマを選ぶと**オリジナリティ**を発揮するのが大変になる。  
沢山の論文を調べ、新しい切り口から分類して特定分野の研究の流れを紹介するタイプの論文もある(「サーベイ論文」と呼ばれる)が、学生には不向き。

## 3. 論文の構成

- ・**理論経済学系の論文**の一般型: はじめに、**先行研究**の紹介(批判的な検討)、**モデル**の提示、**実証分析**による立証(計量経済学を駆使)、研究結果の含意(現実との対応関係、各種政策の意義など)、おわりに(まとめと今後の研究課題など)、**参考文献**
- ・**調査論文**(官庁やシンクタンクなど): 理論経済学系の論文ほど、**の厳密さが無い 多種類のデータ**を用いて、直観に訴えつつ、分かり易く立論する。  
上記を省略し、**を簡単なロジック(経済学ではなく、経験則を紹介する程度のこと)**に置き換え、**でグラフを多用することが多い**。
- ・**紹介型の論文**: 今まで知られていなかった重要な資料、新しいアンケート調査結果などを紹介し、それらの意義を考察する(上記に相当)タイプの論文。  
新資料の発見、新しいアンケートの考案・実施(しかも、かなりのサンプルが必要)などが無いと苦しい。他人のアンケートを使う場合は、新しい切り口(例えば個票データの分析など)、他の調査との整合性チェックなどが必要になる。

## 4. 誤解を生まない文章を書く

- ・複雑な修飾関係を組み込むと**多義性が生じる** 文を短くする、主語・述語の関係をはっきりさせる、接続詞で上手につなぐ、句読点を上手に使う、などの対応策が必要。  
例: 「銀行はリスク管理を強化して地価下落に苦しみ経営困難に陥った企業を調べる」
- ・**論理が発散しないようにする** 論理の流れを考えて文章を構築する  
できれば、データで立証しながら議論を進めていくことが望まれる。
- ・**独善を廃した論文を書く** 何回も**見直す**(自分の意図と別の読み方がないか、誤字・脱字はないか。論理に飛躍がないか等を調べる) 色々な人にコメントを貰う
- ・ワープロ・ソフトの場合、文章の組み換えが容易 最初の文章には拘らない。  
**誤字・変換ミス**に注意。また、バージョン管理にも注意(古いバージョンを変更しない)。
- ・図表をできるだけ効果的に使う プレゼンテーションの効果を考える

以上